７．　近未来志向の着物に対する若者の嗜好性

－横浜国立大学大学生を対象とした調査より－

○福田幼子・薩本弥生（横浜国立大学）

1.　はじめに

着物は日本の民族衣装であるが、洋服が日常着となった現代では、家庭や日常で着物に触れる機会はほとんどないのが一般的である。一方で、着物をファッションとして自由に楽しむ提案の動きも見られる。2012 年より東京で開催されるイベント「きものサローネ」では、“着物を日常に着る自由なファッションとして楽しむ”をコンセプトに、小売りや生産者が、現代感覚を反映した着物を提案し、2 千人を越える来場者を集めている [1)]。そこで本研究は、「日常のファッションとしての着物」に対する若者の嗜好性を調査し、そこから現代における着物の立ち位置を分析することを目的とする。

2.　研究内容・方法

若者の着物に対する嗜好性を調査するため、以下の項目のアンケートを実施した。

①文章による質問項目：先行研究(近藤,2008[2)])を参考に 16 項目を作成し、和服、伝統文化、ファッションに関する興味関心を尋ねた。回答は 5 件法で、尺度は「5:全く当てはまらない(否定的)～1:とても当てはまる(肯定的)」とした。

②写真による質問項目：日常的なファッションとして提案される現代的な感覚の着物の写真 30 枚(男性用 15 枚、女性用 15 枚)に、素材などの特徴の説明文を付けたものを用意し、それらの印象(嗜好性)を尋ねた。尺度は「5:全く好きでない(否定的)～1:とても好きである(肯定的)」とした。

調査は、2014 年 2 月に横浜国立大学で開講する教養育科目・衣生活関連の授業の受講者を対象に実施した。回答の回収には大学の授業支援ウェブシステムを利用した。

3.　結果および考察

有効回答数 101 名(男子 73 名・女子 28 名、年齢 18~23 歳)を得た。ここでまず、嗜好性に偏りがみられ、単独の動きをする写真 2 枚を除外したので、解析には写真 28 枚分の質問項目のデータを使用した。

3.1.　質問項目の平均値

文章による質問項目では、「着物に対する興味関心」と「伝統文化や和服の審美性」を尋ねた項目の全てで、肯定的な回答(平均値 3.0 以下)に偏り、男子よりも女子の方が、有意に肯定的な結果(平均値が低い)となった。

写真を用いた質問項目では、男性用着物の全てについて、否定に偏った回答(平均値 3.0 以上)を得た。女性の着物については、写真項目によって、肯定と否定の両者が認められた。

従来の形状で色柄がシック・クールな着物(写真例：図 1,第 4 因子,因子分析結果は後述)に対しては、肯定に偏った回答(平均値 3.0 以下)が得られ、女子が男子より有意に肯定的(低い)となった。

このような着物には美的価値が見出され、多くの若者に肯定的に捉えられている。若者の嗜好性は、着物の形状について保守的であり、特に男性の着物に対しては、色柄のみならず、素材までも従来から逸脱する要素に対して否定的な傾向が認められた。

第 1 因子(男性物)　第 2 因子(男性物)　第 3 因子(女性物)　第 4 因子(女性物)　第 5 因子(女性物)

図 1.　写真質問項目の因子を代表する写真

表 1　抽出された因子と相関係数

** 1% 水準で有意
* 5% 水準で有意

			文章質問項目の因子				
			着物興味	服装興味	和の要素の日常服への取り入れ	伝統経験	和服様式美(伝統的)
			第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
写真の嗜好に関する因子	男物_形状保守-モダン要素(逸脱要素)有	第1因子	.300**	-.005	.417**	.307**	.316**
	男物・女物_和洋折衷(洋風)	第2因子	.295**	.024	.396**	.284**	.264**
	女物_和洋折衷(和風)	第3因子	.277**	.026	.278**	.228*	.234*
	女物_形状保守-クール・シック	第4因子	.387**	-.050	.224*	.384**	.273**
	女物_形状保守-原宿系ポップ	第5因子	.126	-.191	.400**	.194	.140

3.2.　因子分析・因子間の相関分析

文章質問項目で 5 因子、写真質問項目で 5 因子を得た。因子名は表 1 に挙げるように命名した。各因子の代表的な写真を図 1 に示す。女性用の着物は、4 因子に分散したが、男性用の着物は 10 枚が第 1 因子とまとまった。これらの因子の相関係数を表 1 に示す。文章質問項目第 2 因子「服装興味」は、着物の写真項目の各因子と相関が見られず、現代的な着物とファッションに対する興味に関連性が認められなかった。

4.　まとめ

今回、若者の着物に対する嗜好性を具体的な写真を基に確認することができた。現代の若者が持つ「着物に対する美の基準」は画一的であることがわかった。若者にとって着物は「自由なファッション」というよりも、完成された定型の民族衣装であり、ファッションとは別の意味合いが強いことが考えられる。その傾向は男性の着物において強く認められた。

(参考文献)
1)　きものサローネ in 日本橋 HP(最終アクセス日 2014/10/02)；http://kimono-salone.com/blocks/index/00001
2)　近藤他、女子学生の和服に対する意識: 1990 年調査と 2007 年調査の比較、中国学園紀要、7, 13-19, 2008-06